

景況調査

(平成23年1月～3月期)

平成23年1月～3月期の調査結果では前回調査に比べて、業況と採算(経常利益)が上向き、売上高と資金繰りがわずかに下向きとなった。この結果は、前回調査時点での見通しよりも良い結果であった。業況が上向きの結果となった要因は、製造業、サービス業、卸売業の業況が上向きになったことによるものである。売上は、卸売業が上向きの結果を出したがその他の業種では下向きとなった。採算は、製造業、小売業、卸売業が上向きであり、資金繰りは建設業で上向きとなった。

平成23年4～6月期の見通しでは、採算以外は大きく下向きの見通しである。

〈業況〉
平成23年1～3月期の業況は▲18.8と前回調査に比べて6.6ポイントの改善となった。特に製造業の業況は23.1で前回調査に比べて7.7ポイント上昇している。卸売業も0.0となり前回調査が▲33.3であったことを考えると大幅な改善となった。サービス業は今回調査で▲18.8ではあるが前回調査から22.4ポイント改善している。一方で小売業は▲52.9

と過去1年間で最低の数値となり、建設業は▲25.0と前回調査より悪くなった。
4～6月期の見通しは▲36.7と大きく業況が悪くなると見通す回答が多かった。

〈売上高〉

売上高は、50.0という非常に高いDI指数となった卸売業以外は前回調査より数値が下がった。全体では▲6.3である。業況では数値の上があった製造業も15.4と前回調査より15.4ポイント下っている。前回調査で0.0であった小売業は▲11.8、同様に前回10.0の建設業は▲16.7、サービス業は▲29.4から▲31.3となった。

4～6月期の売上高見通しは全体で▲43.8と大幅なマイナスとなっている。

〈採算(経常利益)〉

採算は全体で▲51.6となり、前回調査の▲53.1より少し数値がよくなった。業種別では、製造業が7.7となりDI指数がプラスとなった。小売業も▲40.0から▲35.3、卸売業が▲33.3から▲16.7とマイナスではあるが改善している。逆に建設業の採算は▲55.6から▲66.7、サービス業で▲37.5

から▲43.8と悪化している。
4～6月期の採算見通しは、▲45.3とわずかに改善の見通しとなっている。

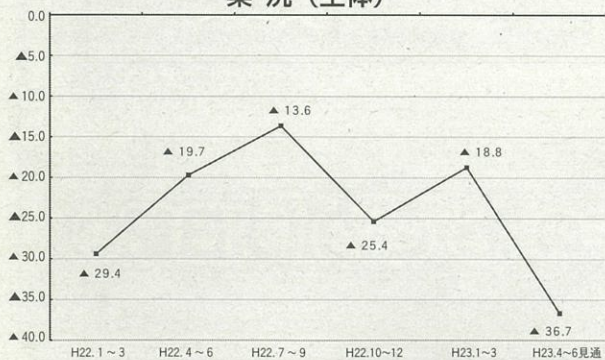
〈資金繰り〉

1～3月期の資金繰りDI指数は▲15.8となり、前回調査の▲11.7よりも少し数値が悪くなった。業種別では建設業が▲22.2から▲9.1と資金繰りが良好化しているが、小売業、製造業、サービス業、卸売業ではいずれも数値が悪くなっており、資金繰りが悪化している。
4～6月期の資金繰り見通しは、全体で▲34.5であり、業種ごとに見ても全ての業種で資金繰りの悪化が見込まれている。

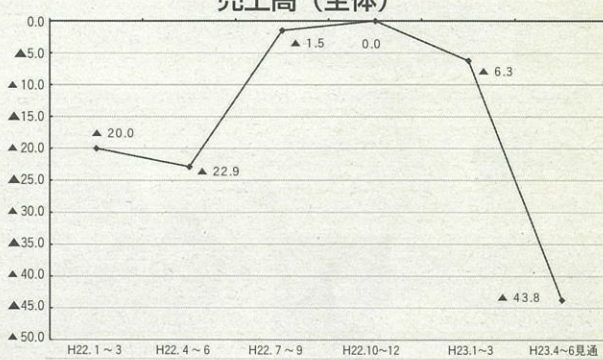
〈その他の意見〉

- ・震災による商品の入荷が不安定になっており、客先の今後の投資見送り等明るい兆しが無い。
- ・震災の影響、公共投資の減少、原材料の価格高騰、原材料の確保困難等、4月以降は全てにおいて悪化すると思われる。
- ・70歳以上世代の高所得層への課税等により、若年層への仕事や所得の配分施策が望まれる。
- ・先行きが不安定で、消費ではなく貯蓄が優先している。大企業だけでなくでもいいから社員に安定感を与えられれば全体がよくなるのではないか。

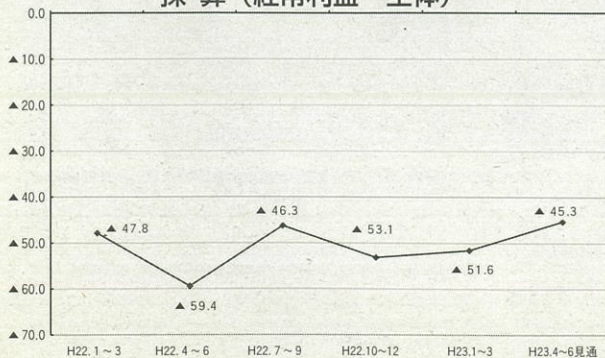
業況(全体)



売上高(全体)



採算(経常利益 全体)



資金繰り(全体)

